

'19 旅立ちを前に

高校生活を振り返って

— 1 —

高校では陸上競技に力を注ぎ、長距離走やチームで出場した駅伝で近畿、全国大会を経験した。そんな中「ただ競技ができる人間になるな」と、顧問の先生から言われた言葉が心に残っている。

部活動を通し、周りの人から出場したいと思っ

た」と話す。

高校駅伝は、1年生の頃

から出場したいと思っ

返る。

期待と緊張で迎えた全国

だが、2年間メンバーがそろわず、県大会のスタートラインに立つこともなかった。その悔しさから3年生では、常に駅伝を意識して「田辺工」のたすきを着けて練習した。チーム全員の思いが一つになり、県大会で優勝。田辺工業初となる全国大会の出場を決めた。「競い合えるチームメイトがいたから互いの記録を伸ばすことができた」と振り返る。

大会は、外国人留学生が多い3区を区間14位で走った。「落ち着いて走ることができ、走り終わった時は『楽しかった』と思った。ただ、まだまだいけたという気持ちもある」

陸上競技をやりきったとは思っておらず、卒業後も続ける。山梨学院大学へ進学し、さらに自分の走りを鍛える。

「大きなことを言っていると思われるかもしれないが、将来の目標は日本を代表する選手になること。田辺出身の選手として活躍し、地元を盛り上げたい」。はにかみながらもまっすぐ前を見据えた。(安井夕記)

田辺工業高校



電気電子科

つづき ゆうき
都築 勇貴君 (18)

クラブ活動や生徒会活動に情熱を注いだ3年間。うれしかったこと、悲しかったこと、いろいろなことがあった。田辺地方の高校を卒業する3年生に思い出をを語ってもらった。